

検索技術者検定準2級・2級 受験の手引き

この手引きは、準2級および2級を受験される予定の皆さんが少しでも効率的な受験勉強を進められる様に、試験の領域および受験のための学習方法について説明したものです。この手引きをご利用いただき、効率的な受験勉強の参考にしていただければ幸いです。

皆さんのご健闘を祈念しております。

1. 試験の対象者

準2級・2級試験の対象者は、組織において情報検索業務に従事している人、あるいは自身のために情報収集活動を実施している人、情報関係の大学で情報活用についての授業を履修した人、図書館員等を想定しています。なお、準2級はどなたでも受験可能ですが、2級は「準2級合格者」が対象です。(2024年度試験より変更)

2. 試験の領域

試験領域の区分および内容は以下のとおりです。

区分	内容
(1)情報検索技術に関する知識と実践	<ul style="list-style-type: none">・情報資源の選択能力・検索システムに関する知識・コマンド、検索式、キーワード、シソーラスなど検索技術に関する一般的知識・情報要求者とのコミュニケーション能力・インフォプロの役割
(2)情報組織化と流通	<ul style="list-style-type: none">・情報検索の歴史・データベースの種類・データベースの流通・情報サービス機関
(3)専門分野の情報資源	<ul style="list-style-type: none">・代表的な専門分野の情報資源と特徴・専門分野の検索戦略作成・専門分野の検索主題の解析能力・専門分野の調査結果の評価、考察・専門分野のサーチエイドに関する知識・情報検索に関する英文読解力

区分	内容
(4)情報の利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の管理 ・情報の分析 ・情報と問題解決 ・知的財産権、著作権に関する知識
(5)情報の最新技術	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータに関する知識 ・インターネットに関する知識 ・情報セキュリティに関する知識
(6)情報の伝達と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・思考過程を簡潔に表現する文章作成能力

(1) 情報検索技術に関する知識と実践

検索の仕組みについての理解、シソーラスや分類についての理解、検索システムの機能についての理解が求められます。検索システムの外観は、最近大きく変わってきていますが、中で動いている仕組みや索引は今までと変わっていません。**準2級・2級用参考書(4. 参考書参照)**の1章「情報検索の技法とインフォプロ」、2章「データベースと情報サービス機関」に必要な知識が記載されています。

(2) 情報組織化と流通

情報の流れについての理解が求められます。準2級・2級用参考書では2章「データベースと情報サービス機関」が該当します。

(3) 専門分野の情報

さまざまな分野の情報検索システムとデータベースについて、広い知識が求められます。準2級・2級用参考書では3章「専門分野別の情報資源の内容とその検索」が該当します。非常に多くのシステムやデータベースの説明がありますが、準2級・試験では、自分が日頃使用しているツールを中心として、周辺のシステム/データベースへの理解を広げるとともに、自分にあまり関係の無い分野についても大まかな知識を持つことが大切です。

2級試験では、自分の得意とする分野での検索能力を問う問題が出題され、システムやデータベースに関して、準2級・2級用参考書に書かれていない深い知識が要求されます。

(4) 情報の利活用

インフォプロは、検索だけでなく、情報の管理や分析、活用等、情報に関連する周辺の知識が求められています。特に著作権についての正しい知識が要求されます。準2級・2級用参考書では4章「情報の管理・分析と知的財産」が該当します。

(5) 情報の最新技術

コンピュータ、インターネット、および情報のセキュリティに関する基礎的な知識と、情報検索に関連するITの最近の動向についての知識が求められます。準2級・2級用参考書では5章「コンピューター、ネットワークと情報セキュリティに関する知識」が該当します。

準2級・2級用参考書には書かれていない、最近のトピックも出題されることがありますので、日頃から「情報の科学と技術」や「情報管理」の記事に気をつけておきましょう。

(6) 情報の伝達と評価

準2級試験は選択式の問題ですが、2級試験は記述式の問題になります。ここでは、正確で意味のわかりやすい、簡潔な文章を書くことが求められます。

3. 勉強の仕方

(1) 準2級・2級用参考書

準2級・2級用参考書に記載されていることを、すべて覚えこむことは困難ですが、少なくとも書かれていることが理解できるようにしてください。すべてのシステムやデータベースについて、詳細に理解することは困難ですので、前述の2(3)にあるように、自分の得意な分野のシステムやデータベースを中心に、また、後述の3(3)にあるように、興味を持って周辺への理解を広げるようにしましょう。

(2) 過去問題

試験のホームページに掲載されている過去問題は、解けるようにしてください。

ただし、すべての過去問題は**出題当時の情報**です。データベースの名称や収録内容等が変更になっている可能性がありますので、必ず**最新の情報を確認**するようにしてください。

(3) 周辺領域

2級試験では、準2級・2級用参考書にないトピック、たとえば、最近の話題について出題されることがあります。日頃から「情報の科学と技術」、「情報管理」など情報調査に関連する雑誌で、情報検索を巡る最近の話題に親しんでください。また新聞などで関連する話題が記事になることもあるので注意が必要です。

(4) 英語について

情報検索に関する英文資料が読める程度の英語力が求められます。

4. 参考書

書籍：準2級・2級用参考書

「プロの検索テクニック第3版：検索技術者検定 準2級・2級 公式推奨参考書」

発行：樹村房（2024年3月25日刊行） ISBN：978-4-88367-384-1

雑誌：「情報の科学と技術」、「情報管理（2018年3月以降休刊）」など

※ なお、本手引きについての質問にはお答えできませんのでご了承ください。